



美しい 県土づくりNEWS

2016年
12月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第149号
平成28年12月28日発行
編集 県土整備企画室



目次

- 2 一般国道340号立丸峠の小峠工区が開通！！
- 3 台風災害からの早期復旧に向けた取組
 - ・災害関連緊急砂防事業16箇所採択！
 - ・応急仮設住宅が完成しました！
- 5 一般国道107号西和賀町杉名畑地区 2車線供用開始
- 6 宮古市道北部環状線(山口—佐原間)が開通！！
- 8 「岩手労働局・岩手県・建設労働災害防止協会岩手県支部工事合同安全衛生パトロール」を実施！
- 9 優良工事20件を表彰
- 11 木造住宅フォーラム開催報告
- 12 第13回土木合同セミナーを開催しました！
- 13 いわて三陸復興フォーラム「安全の確保報告会」
- 14 県土整備部の職場紹介～港湾課～
- 15 県土整備部の職場紹介
～県南広域振興局土木部千厩土木センター～

たつまるとうげ

【復興支援道路】一般国道340号立丸峠の小峠工区開通！！

県が「復興支援道路」として遠野市土淵町栃内～宮古市小国間で整備を進めている一般国道340号立丸峠工区(L=5.21km)のうち立丸第二トンネル(L=0.92km)を含む小峠工区(L=1.70km)が完成し平成28年12月11日に開通式を開催しました。

宮古土木センターが東日本大震災津波以降、三陸復興道路整備事業として整備を進めている道路のうち初の開通式です。



宮古市立川井小学校児童と一緒にテープカット、くす玉開被！！

【復興支援道路】

一般国道 340 号立丸峠の小峠工区開通！！

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

県が「復興支援道路」として遠野市土淵栃内～宮古市小国間で整備を進めている一般国道 340 号立丸峠工区（L=5.21km）のうち、立丸第二トンネル（L=0.92km）を含む小峠工区（L=1.70km）が平成 28 年 12 月 11 日に開通しました。

当日は天候にも恵まれ、山本宮古市長、本田遠野市長、小向沿岸広域振興局長、堀江県南広域振興局長、県議会議員、地権者、宮古市立川井小学校の皆さまなど約 110 人出席のもと、開通式を開催しました。

開通式では宮古市長から「立丸峠の整備により安全で円滑な通行が確保される。大峠工区の早期開通に向け、着実に事業を進めて欲しい。」、遠野市長から「地域間連携にはトンネルが必要だった。両市の絆をより深めたい。」と祝辞をいただきました。

川井小学校児童からは、開通式を迎えての作文発表があり、「着工式の際は 4 年生でこれまで、現場見学、貫通式に参加し、防水シートにメッセージを書いたことが思い出となっている。命の道の重要さを感じ、復興についてこれからも考えていきたい。道路の開通により、宮古市と遠野市がさらに仲良くなれば良い。」などと発表していただきました。

県では、今年を「本格復興完遂年」と位置付け、各種事業の推進に取り組んでおり、この立丸峠についても、今後、遠野側の立丸第一トンネルを含む「大峠工区」の早期開通に向けて、安全に万全を期して全力で取り組んでいきます。



小向局長の式辞



山本宮古市長の祝辞



白旗所長の事業経過説明



本田遠野市長の祝辞

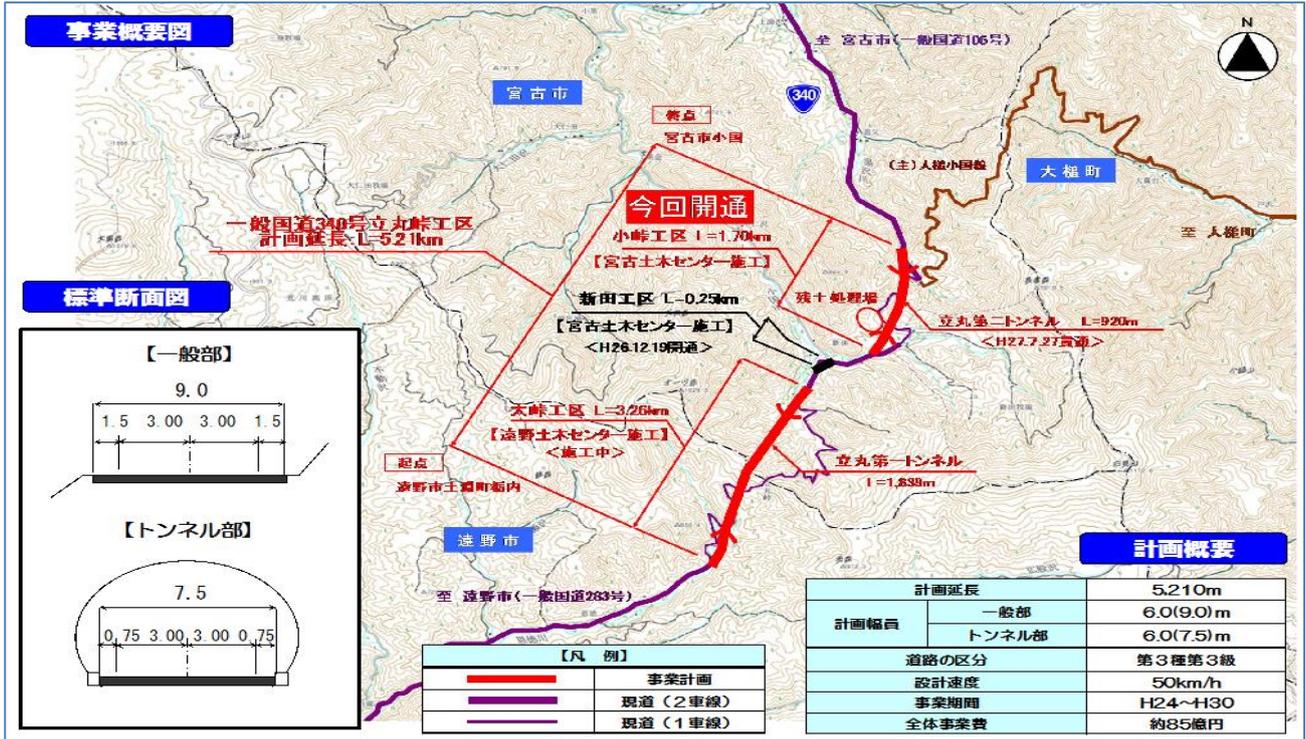


川井小学校児童からの作文発表



パトカー先導によるパレード

【立丸峠工区の事業概要】



【小峠工区】の事業経過】

- 平成23年度 一般国道340号を復興支援道路に位置づけ
- 平成24年度 9月定例県議会において「立丸峠工区」として新規事業化
⇒新規事業化が年度途中に行われることは異例、復興への県の強い意志の表れ
- 平成25年度 道路詳細設計、トンネル設計、用地補償等を行い立丸第二トンネル工事着手
⇒トンネル前後の道路改良を含めた小峠工区全線を一括発注により工期短縮
- 平成26年度 トンネル築造工事推進
- 平成27年度 トンネル築造、道路改良工事を推進（トンネル貫通式H27.7.27）
- 平成28年度 道路改良舗装、トンネル舗装、トンネル設備工事を推進

新規事業化からわずか4年余りで開通！！

【道路整備による効果】

- 【時間短縮等】立丸峠工区の整備により遠野～宮古間で約4kmの距離短縮、約6分の時間短縮
- 【災害に強い道路】隘路区間の解消、トンネル整備により冬期間の交通環境が大幅に改善
- 【安全・安心の確保、産業の支援】
 - 復興支援道路の整備により物資輸送等の緊急輸送道路としての機能強化
 - 救急医療施設へのアクセス向上
 - 「浄土ヶ浜」や「伝承園」などの主要観光地をつなぐ観光ルートの強化による観光活性化
 - 通勤、通院、買い物などの生活圏が広がり、広域的な交流、連携がさらに強化

土淵バイパス

●before

●after

約4kmの距離短縮
約6分の時間短縮
冬期間の交通環境改善

土淵バイパス
H25.12月全線開通

宮古・遠野両地域の
交流・連携を強化

立丸峠工区

●before

●after

【台風第10号災害からの早期復旧に向けた取組】

災害関連緊急砂防事業16箇所採択！

砂防災害課

平成28年8月の台風第10号により、沿岸北部の岩泉町や宮古市を中心に県内155箇所です砂災害が発生しました。

県では、人家等への被害が大きかった箇所や今後の降雨等により土砂流出のおそれがある箇所で、緊急に対策が必要な16箇所（岩泉町11、宮古市5）について「災害関連緊急砂防事業」を導入し、恒久的な砂防堰堤を整備することとして国と協議を進めてきました。

今般、国との協議が整い、11月30日までに16箇所全て事業採択されたところです。

現在、現地の測量、地質調査及び設計作業を進めているところであり、今後は平成29年度中の工事完成に向けて、関係職員一丸となって取り組んでいきます。

【台風第10号による市町村別土砂災害発生箇所数】

	土石流等	がけ崩れ	計
久慈市	6	1	7
洋野町		1	1
軽米町		2	2
宮古市	18		18
岩泉町	116	4	120
釜石市	1		1
大槌町		1	1
遠野市	5		5
計	146	9	155

事業実施予定箇所図

- 災害関連緊急砂防事業
- ◆ 箇所数：16箇所（岩泉町11箇所、宮古市5箇所）
- ◆ 被害状況：人家全壊1戸、一部損壊11戸、床上浸水1戸、床下浸水6戸、非住家9戸
- ◆ 保全家屋：60戸
- ◆ 事業年度：H28



【被災状況：岩泉町松橋の沢(5)】



【被災状況：宮古市片巢の沢(2)】



【砂防堰堤のイメージ】

台風災害からの早期復旧に向けた取組

～応急仮設住宅が完成しました！～

建築住宅課

台風第10号に伴う災害では、岩泉町を中心に4,178戸（全壊423戸）で家屋の被害が生じ、県では、被災された方々の住まいを確保するため、応急仮設住宅の早期整備に取り組んできました。

プレハブ協会と調整をすすめ、10月12日の中野団地（42戸）を皮切りに各団地の工事に着手し、12月21日には全団地（8団地171戸）が完成しました。

整備に当たっては、岩泉町との協議を重ね、風除室や和室を設置するなど、被災された方のニーズを反映するよう配慮を行っています。

各団地には年内の入居を予定しています。

岩泉町内応急仮設団地

団地名	所在地	建設戸数
中野団地	岩泉字中野6-4	42
志田団地	岩泉字志田13-1	23
中家団地	岩泉字中家55-1	16
滝の上団地	門字滝の上53-9	26
稲荷団地	綿字稲荷51-1他	20
日影団地	安家字日影182他	9
日影第2団地	安家字日影4-5 安家字日影1-29他	17 8
下中里団地	中里字下中里12-1	10
合計		171

中野団地



日影団地



中家団地



「一般国道107号西和賀町杉名畑地区 2車線供用開始」のお知らせ

～ 1年9か月ぶりに交通規制解除、西和賀町主催の感謝イベント～

県南広域振興局土木部 北上土木センター

平成27年3月29日の土砂崩れにより被災した西和賀町杉名畑地区の一般国道107号では、発災後約1年9か月となる12月17日10時に、2車線供用を再開しました。

復旧工事には平成28年4月から着手し、当初は平成29年9月の2車線供用を見込んでいましたが、天候に恵まれたことや、現場作業の効率化を図ったことなどにより、冬期休工前に必要な工程を終わらせ、予定より約9か月前倒しすることが出来ました。

当日は、2車線供用のセレモニーを行い、その後、西和賀町主催の「感謝の集い」が藤原衆議院議員をはじめ、北上市長、横手市長など多くの来賓を迎え開催されました。また、西和賀名物なとう汁のお振る舞いや西和賀高校生徒考案の「西和賀の幸丼」が販売されるなど、開通を祝うイベントも盛大に行われました。



2車線供用開始を控えて

また、西和賀町からは、復旧工事に尽力した株式会社小田島組に感謝状が贈呈されました。

このような感謝状が贈呈されることは例がなく、早期2車線供用に対する期待の大きさや、地域における国道107号の重要性を改めて知る出来事となりました。



感謝状贈呈

今回の早期2車線供用は、NEXCO 東日本に特例として秋田自動車道の1か月間の無料措置を認めていただき、6月に集中的かつ効率的な工事が可能となったこと、長期にわたる昼夜の通行規制でご不便をおかけした道路利用者の皆様にご協力いただいたことなど、本復旧工事に関係する皆様のご理解とご協力のおかげです。改めて感謝申し上げます。



【復興関連道路】

宮古市道北部環状線(山口-佐原間)が開通！！

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

岩手県が「復興関連道路」として県代行事業により整備を進めていた宮古市道北部環状線（山口-佐原間、延長 2.3 km）が、平成 28 年 12 月 23 日 14 時に開通しました。また、開通に先立ち同日 11 時から宮古市の主催による開通式が、来賓、工事関係者、地域住民など約 100 人の出席のもと盛大に執り行われました。

開通式では山本宮古市長が「宮古地域の物流促進、渋滞解消が期待できる。平成 30 年度の全線開通をめざし、全力で取り組んでいく。」と、開通の喜びと事業推進の意気込みを語りました。その後に中野岩手県技監から祝辞を述べ、鈴木衆議院議員、平岡東北地方整備局三陸国道事務所副所長、前川宮古市議会議長からも祝辞を頂きました。

北部環状線は、宮古市街地の北側に新たなルートを整備し、道路ネットワークの強化・県立宮古病院へのアクセス向上・中心市街地の渋滞緩和・災害時の緊急輸送道路としての利用等を目的とする道路であり、山口-佐原間（延長 2.3 km）については宮古市の代行事業として県が整備を進めてきました。

県では、今年を「本格復興完遂年」と位置付け、各種事業の推進に取り組んでおり、宮古土木センター管内においては一般国道 340 号小峠工区の開通（平成 28 年 12 月 11 日）に続き、当道路が無事開通の運びとなりました。今後も土木施設の早期整備を目指し、安全に万全を期して全力で取り組んでいきます。



式辞（山本宮古市長）



祝辞（中野岩手県技監）



祝辞（鈴木衆議院議員）



祝辞（平岡三陸国道事務所副所長）

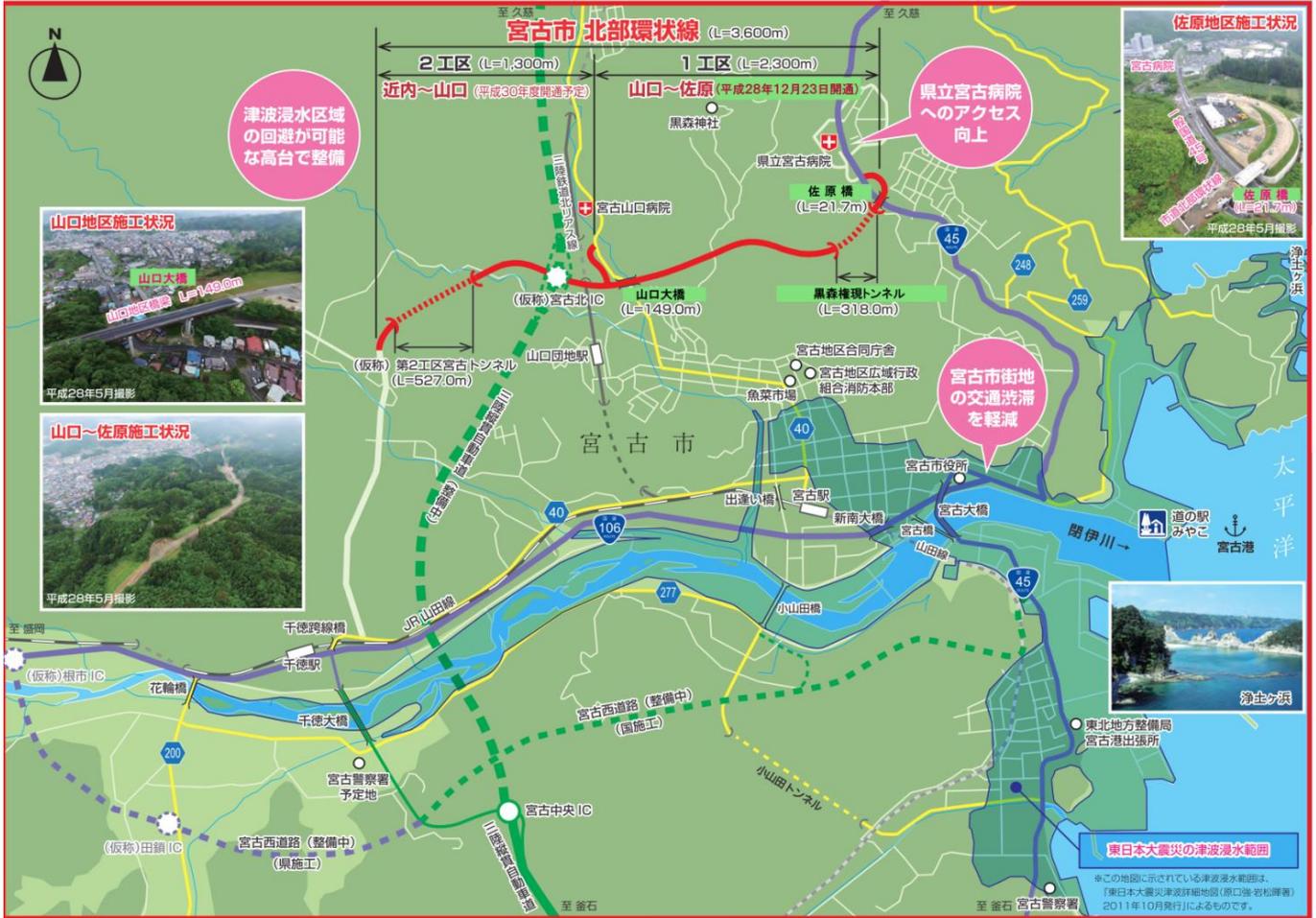


祝辞（前川宮古市議会議長）



事業経過報告（小前宮古市参与兼都市整備部長）

【北部環状線の事業概要】※山口～佐原間（1工区 延長2.3km）が今回開通



黒森神楽演武が開通式に花を添えました！



テープカット、くす玉開披の状況

「岩手労働局・岩手県・建設労働災害防止協会 岩手県支部工事合同安全衛生パトロール」を実施！

建設技術振興課

平成28年12月1日から平成29年1月31日まで実施する「いわて年末年始無災害運動」の一環として、12月5日、岩手労働局・岩手県・建設業労働災害防止協会岩手県支部による三者合同安全パトロールを矢巾町の岩手県立療育センター及び岩手県立となん支援学校(仮称)新築(建築)工事の現場で行いました。



県立療育センター(左)、となん支援学校(仮称)(右)



パトロール時の点検状況



パトロール時の点検状況



パトロール終了後、及川部長による講評

【平成28年1月～10月 死亡労働災害発生状況(岩手労働局管内)】

業種別	建設業7人 製造業2人 農業2人 林業2人 運輸業1人 商業1人 その他1人	合計 16人
監督署管内別	盛岡1人 宮古1人 釜石2人 花巻3人 一関1人 大船渡2人 二戸6人	
事故の原因別	墜落転落5人 交通事故1人 激突され2人 はさまれ、巻き込まれ3人 崩壊、倒壊1人 飛来落下1人 激突1人 破裂1人 その他1人	

パトロール実施後、三者から講評が行われ、及川県土整備部長からは「本現場の安全対策は概ね良好であった。当部発注の工事の事故発生件数が、昨年度に引き続き今年度も多い状況にある。関係者が一丸となって、安全衛生活動に取り組んでほしい」との話がありました。

優良工事 20 件を表彰

～ 優良県営建設工事表彰 ・ 優良下請負企業表彰 ～

建設技術振興課

平成 28 年 12 月 22 日、エスポワールいわてにおいて、平成 28 年度「優良県営建設工事表彰」と「優良下請負企業表彰」を行い、千葉副知事から表彰状と記念品の伝達を行いました。

「優良県営建設工事表彰」は、建設業の健全な発展とその施工技術の向上に資することを目的として、昭和 57 年度から実施しているもので、今年度で 35 回目となります。

今回は、平成 27 年度に完成した、請負額 1,000 万円以上で、かつ工事成績評点 85 点以上の県営建設工事を審査対象とし、各工事発注公所等からの推薦を受けて、優良県営建設工事表彰審査会（庁内委員と外部有識者で構成）において審査され、「総合的に工事成績が良好で他の模範となる県営建設工事」と認められた **20 工事 20 者**が受賞企業として選定されました。

「優良下請負企業表彰」は、県内建設業者の施工技術の向上による公共工事の品質確保及び健全な元請下請関係の構築を目的として、平成 21 年度から実施しているもので、今回で 8 回目となります。

審査対象は、「優良県営建設工事表彰」の対象工事を施工し、今年度の受賞企業として内定した元請負企業から推薦のあった下請負企業です。庁内審査及び優良県営建設工事表彰審査会における審査を経て、**2 工事 2 者**が受賞企業として選定されました。

表彰式には、受賞企業の代表者のほか、工事発注公所等の担当者も多数出席し、受賞企業の優れた業績をたたえました。

知事式辞（千葉副知事）



表彰状授与



受賞者代表による謝辞



記念撮影



【受賞企業・工事一覧】

部門	優良県営建設工事 表彰企業	優良下請負 企業	表彰工事名
土木	(株)板宮建設	—	経営体育成基盤整備事業荻ノ窪地区第3号工事
土木	(株)大久保建設	—	一般国道106号栃渕橋ほか橋梁補修工事
土木	(株)小田島組	—	一般国道107号杉名畑地区道路災害復旧(応急)工事
土木	(株)かばら	—	一般国道340号立丸峠地区道路改築(第2号函渠工ほか)工事
土木	北岩手圧送(株)	—	主要地方道一戸葛巻線青刈橋橋梁補修工事
土木	昭栄建設(株)	—	基幹水利施設ストックマネジメント事業岩手4期地区後藤川温水路第1号工事
土木	進栄建設(株)	(株)一騎工業	一般国道343号正法寺上の橋橋梁耐震補強工事
土木	(株)照甲組	—	石鳥谷大橋下部工補修工事
土木	東野建設工業(株)	—	都市計画道路盛岡駅本宮線中央公園高架橋築造工事
土木	(株)ミナミ	—	中山間地域総合整備事業大清水地区第15号工事
土木	南建設(株)	—	一般国道340号駒板地区道路改良工事
土木	(株)横沢工業所	—	経営体育成基盤整備事業石山地区第3号工事
土木	菱和建設(株)	—	二級河川盛川筋堀川地区堤防嵩上工事
舗装	(株)丹野組	—	主要地方道二戸五日市線浄法寺地区道路改築(その8)(舗装)工事
舗装	(株)明和土木	—	主要地方道大船渡綾里三陸線赤崎地区舗装補修工事
法面処理	(株)たかしん興業	—	一般県道大川松草線長田地区道路災害復旧(26災13号)工事
塗装	三陸土建(株)	—	一般県道繋温泉線新城橋橋梁補修工事
建築一式	中亀建設(株)	(株)小松組	県営松園アパート(10号棟)リフレッシュ(建築)工事
管設備	(株)双葉設備アンドサービス・及川設備工業(株)・(株)高松水道工業特定共同企業体	—	岩手県立大槌病院等新築(機械設備)工事
防水	(株)エイワ	—	岩手県立釜石病院屋上防水改修工事

木造住宅フォーラム

開催報告【建築住宅課】

平成28年11月21日(火)～22日(水)



木造住宅に関する全国大会であるこのフォーラムは、木造住宅の普及促進が地域活性化やまちづくりに繋がっていることを体感してもらえる内容を目指し、紫波町のオガール紫波で開催しました。

初日は、エコハウスの推進に携わった「みかんぐみ」の竹内昌義氏、「オガール紫波」の岡崎正信氏、「Dot プロジェクト」の長土居正弘氏と、地元建築業者から「藤建ハウス」中野夕希氏、「作松建設」の作山良枝氏に登壇いただき、紫波町が取り組んでいるエコタウンの取組を中心に、木造住宅の省エネ化と紫波町産材の利活用、またこれらを推進することによる地域産業の活性化について講演やパネルディスカッションを行いました。

2日目は、1日目に紹介したエコタウンや地域熱供給の施設見学のほか、紫波町産材を切り出す山林から木材流通センター、製材所を巡りエコタウンに戻ってくるという「日本一短いウッドマイルズ体感ツアー」を行い、紫波町産材を活用した家づくりを行った場合の木の流通ルートを体感してもらいました。

今回のフォーラムでは、省エネ住宅の普及やまちづくりといった取組を、携わっている人たちから説明していただいたことや、山、木、住宅や町並みなど、参加者が直接目で見て、肌で感じる事ができたことにより、大変充実した内容となったものと思います。



第13回土木合同セミナーを開催しました！

テーマ「災害対応ネットワーク構築に向けて ～台風第10号からの復旧 官民一体となった取組～」

土木合同セミナー実行委員会事務局 盛岡広域振興局土木部

平成28年12月7日(水)、「エスポワールいわて」において、第13回土木合同セミナーを開催し、237名のご参加をいただきました。

セミナーでは、台風第10号災害をテーマに、調査により明らかになった被害状況や応急対応に尽力された各現場の状況などについて報告をいただきました。



「台風第10号による被災概要について」

県土整備部 八重樫弘明 河川港湾担当技監



被害状況の概要や復旧の今後の見通しなどを報告。「再度災害を防止するためにも改良復旧事業等を導入して対応したい。河川の拡幅、河床掘り下げも年度内着工。今月に事業実施方針の決定を予定。」

「国道106号(区界～新川)における災害応急対応」

岩井建設(株) 工事部 現場代理人 工藤史拓 氏



約70kmの区間、16日間、応急対応した各現場の状況を報告。「土地勘がない場所での作業で、迂回路が分からず苦労した。事前に地元企業と連携することが重要。」

「国道455号二升石地区における災害応急対応」

(株)遠忠 代表取締役 遠藤忠臣 氏



「盛岡～岩泉間の通行止めを一刻も早く解除させるとの思いで、盛岡地区の19社が連携し、3交代24時間体制で応急対応した。局職員の常駐により、すぐ相談でき、力の結集で乗り越えることができた。」

「災害現場におけるドローン3D空間計測の実際

～i-Constructionを見据えて～

(株)昭和土木設計



ICT推進室リーダー 佐々木高志 氏
久慈に向う国道281号等の災害現場でのドローン3D計測映像などを紹介。大規模災害調査等で本領を発揮する技術。

～現地災害対策本部長として～

盛岡広域振興局 浅沼康揮 局長



災害応急対応などに対する建設業への感謝の思いを語り、着の身着のまま現地に着任した状況も報告。「さまざまな面で県民の安全・安心な暮らしを確保する上で建設業がいかに地域に貢献しているか丁寧にアピールしていくことが必要。」

主催 土木合同セミナー実行委員会

- 岩手県盛岡広域振興局土木部
- (公財)岩手県土木技術振興協会
- (株)日刊岩手建設工業新聞社
- (一社)岩手県建設業協会盛岡支部
- (一社)岩手県測量設計業協会
- (一社)岩手県土木技術センター

いわて三陸復興フォーラム「安全の確保報告会」 ～あらためて考える「地域の防災」～

県土整備企画室

平成29年1月20日（金）～21日（土）の2日間、盛岡市、釜石市の各会場で県が主催する「いわて三陸復興フォーラム」が開催されます。

このうち、県土整備部等で企画・運営する安全の確保報告会では、**岩手大学地域防災研究センターの越野教授や、教育現場や自主防災組織等で地域の防災教育に携わる方々をお招きし、「地域防災」を大きなテーマとした基調講演やトークセッション**を行います。

あわせて、**他県等派遣応援職員から、復興に向けた取組状況をご報告**いただきます。

震災から間もなく6年が経過し、復興まちづくりが形として見えてきた今だからこそ、ハード整備とソフト施策の両面から、「地域の防災」についてもう一度考えてみませんか？

概要

- (1) 日時 **平成29年1月20日（金）** 13時30分～16時00分
- (2) 場所 **岩手県水産会館5階会議室**（盛岡市内丸16-1）
※ 会場には駐車場がありませんので周辺の有料駐車場等をご利用ください
※ フォーラム全体の内容については、県（復興局）のホームページをご覧ください
<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/event/051510.html>

プログラム

- (1) 基調講演「地域防災力の強化に向けて～東日本大震災、台風10号の教訓から～」
越野 修三氏（東日本大震災津波発災時には県危機管理監として県災害対策本部支援室を指揮。現在、岩手県地域防災力強化アドバイザー。）
- (2) トークセッション「学校、家庭、地域が連携して地域防災力を高めるためにはどうあればよいか」（仮）
森本 晋也氏（県教育委員会で震災前からの防災教育や震災後の復興教育に従事。現在、岩手大学教職大学院准教授。）
千葉 稔氏（元東京消防庁ハイパーレスキュー。阪神淡路、東日本大震災津波等災害での現場指揮経験を持ち、現在は奥州市で地域防災サポーターとして活動。）
防災教育等に携わる教職員（調整中）
- (3) 復興に向けた取組状況の報告
岩本 幸生技師（大船渡土木センター復興まちづくり課 [大阪府応援職員]
「高田地区海岸災害復旧工事」復興へのあゆみ」（仮）
東 健一主査（県土整備部建築住宅課 [大阪府応援職員]
「災害公営住宅の取組（仮）」
伴瀬 宗一上席文化財専門員（教育委員会事務局生涯学習文化課 [埼玉県応援職員]
「被災地における復興調査について（仮）」

お申し込み

Eメールまたはファックスにより、参加希望者の「(所属・職名)・お名前」を記載のうえ、下記お問い合わせ先までお送りください。（締切：平成29年1月13日）

お問い合わせ先

県土整備部県土整備企画室 及川

TEL 019-629-5846 FAX 019-629-9130 E-mail s-oikawa@pref.iwate.jp

県土整備部の職場紹介 No.11

港湾課

県土整備部は、「県民から信頼される県土づくり」を目指して、各室課がそれぞれの役割を果たしています。各室課が取り組む課題や業務を毎月ご紹介いたします。

組織の概要

岩手県内には、4つの重要港湾（久慈港、宮古港、釜石港、大船渡港）と2つの地方港湾（八木港、小本港）があります。港湾課では、港湾の適正な管理を行うとともに、海上の交通の発達と地域の振興に貢献することを目的として港湾の復旧・復興と機能回復に努めるとともに、港湾の利用促進を図り、物流活性化を推進しています。

港湾の適正な管理

海上輸送における適正な保安措置の確保に向け、必要なふ頭保安対応に取り組んでいます。

また、施設の維持管理計画を策定し、適正な管理に努めるとともに、県内港湾の危機管理や防災に努めています。



宮古港でのフェリー試験寄港

港湾の復旧・復興と機能回復

被災した防波堤、岸壁及びふ頭用地等の復旧・整備を推進し、東日本大震災津波で被災した港湾施設については概ね機能回復することができました。

また、県内荷主企業等の利便性向上や交流人口の増加など地域の振興を図るため、県内港湾の機能向上にも取り組んでおり、平成30年の宮古・室蘭フェリー定期航路開設に向けてフェリーターミナルなど必要な施設の整備に取り組むとともに、釜石港において、県内初となるガントリークレーンの導入に向けて岸壁の補強工事を行なうなど、港湾の機能向上に努めています。



ガントリークレーン

港湾の利活用の促進

平成28年度に港湾利用促進プランを策定・公表し、港湾の利活用の促進を図ることとしています。

港湾取扱貨物量の回復・拡大に向けて市町や荷役業者と連携したポートセールスを推進しています。首都圏の荷主企業などを対象に、東京でいわてポートセミナーの開催や久慈港、宮古港及び大船渡港における工業用地の売却に向けたポートセールスを実施しています。

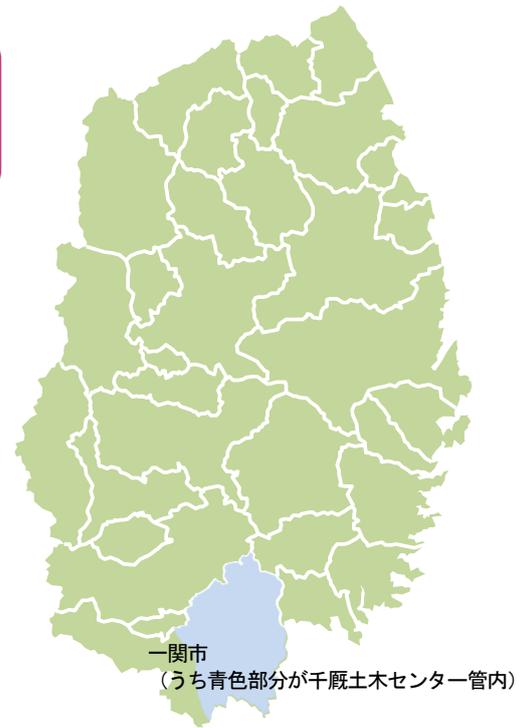
また、これまでも国内クルーズ客船に県内港に入港していただいているところですが、大型外航クルーズ客船を誘致するため、航行安全調査の実施に取り組んでいるところです。



いわてポートセミナー

県土整備部の職場紹介 No.12

県南広域振興局土木部千厩土木センター



地域概要

千厩土木センターは、岩手県の内陸部南端に位置して南は宮城県に接し、西の北上川の流域平野部、東の三陸海岸部との中間にあり、一関市の一部(旧東磐井郡の大東町・千厩町・東山町・室根町・川崎町・藤沢町)6地区で構成されています。東西に約25km、南北に約40km、総面積719.19k㎡であり、一関市の57.2%、県土の4.7%を占め、冬も厳しく冷えることの少ない、県内でも比較的温暖な地域です。

管内には内陸部と沿岸部を結ぶ横断軸としての国道284号、343号等があり、東日本大震災からの本格復興完遂を支援するため、復興支援道路の橋梁耐震補強を推進しています。

組織体制

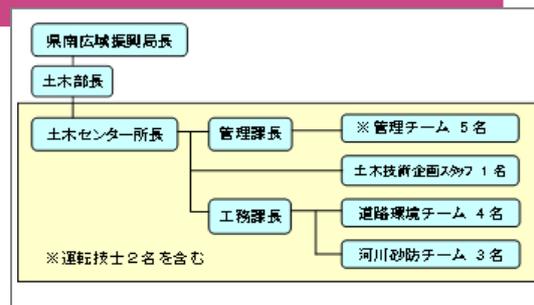
○平成28年度組織キャッチフレーズ

～ともに創る^{無限大}県南局プラス!～

○組織の特徴

当センターの組織は、所長以下2課及び1スタッフ(管理課・工務課・企画スタッフ)で構成され、職員数は、正職員16名と臨時、非常勤職員10名を加え、総勢26名と少人数の体制ですが、風通しの良い明るい職場です。

庁舎管理を含む管理一般、道路維持及び河川砂防急傾斜地事業を所管しており、管内の道路建設事業及び用地、建築指導事務は一関土木センターで行っています。



今年度の主な取組

1. 快適で活力あるまちづくりの推進 (一般国道456号 千厩まちば再生支援)

千厩の中心市街地を通る一般国道456号を、「ひと」で賑わう“ふれあいの道”として位置付け、「みち」の活用を起爆剤とした「まち」の再生を促すことを目的とした「ふれあいの道づくり計画」に基づき、整備と維持管理を道路管理者(県)、一関市及び地域がそれぞれ役割を分担して協働により実施しています。

平成22年度から社会実験やワークショップを重ねながら平成26年度に工事着手、平成29年度の完成を目指しています。



2. 産業を支える社会資本整備の推進 (一般国道284号 折壁簡易PA整備)

復興支援道路として整備が進む室根バイパスに併設される道路休憩施設として、一関市とともに平成25年度から建設を進めており、県内32番目の道の駅登録を目指しています。

施設はバイパス供用に合わせてオープン予定です。



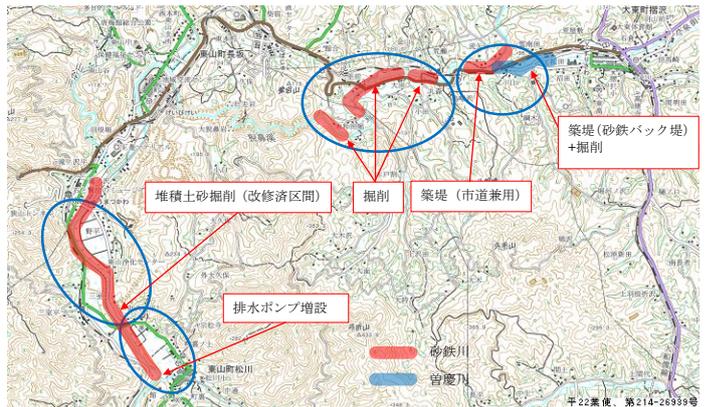
(仮称) 道の駅 室根山 イメージパース

3. 社会資本の維持管理と安全で快適なまちづくりの推進 (一級河川砂鉄川 洪水災害対策)

砂鉄川流域では平成25年7月の豪雨による急激な増水で甚大な被害が発生しました。

このため、被害の大きかった東山町松川、大東町洪民地区について、昨年度までに河道掘削や特殊堤の整備を実施し、今年度も引き続き河道掘削を中心とした対策工事を行っています。

また、浸水被害の大きかった砂鉄川と曾慶川との合流区間では築堤等の河川改修、中通川水門では内水排水ポンプの増設を計画しています。



着手前



河道掘削
特殊堤完了

独自の取組等

1. 職員の能力開発に向けた取組

OJTの一環として平成24年度から全職員(運転技士、臨時・非常勤職員を除く)参加による自由な題材でのプレゼンテーションを毎月続けています。事業計画や方針を県民や関係者に説明し理解を得ること、組織における意思統一や情報共有を図るためのスキルを身につけることなどが目的の職場研修ですが、業務以外にも個人の趣味や知識、資格の紹介など多彩な話題が紹介されています。



月1回実施の職場研修

2. ビジネスパートナー(建設業協会)との協働意識向上への取組

異常気象時の迅速で正確な情報収集を目的に、建設業協会、一関市(旧東磐井)及び千厩土木センターで情報伝達訓練を毎年実施しており、伝達方法や新しいメディア利用について改善を行っています。また、鳥インフルエンザの発生を想定した埋却の実地訓練などを通して危機対応の意識共有を図っています。



鳥インフル実地訓練



スマホによる画像伝送

建設マン モグちゃん
(マジガキワッケー)

